

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2376200164
法人名	有限会社大翔
事業所名	グループホーム日和
訪問調査日	平成 21 年 3 月 31 日
評価確定日	平成 21 年 6 月 18 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2376200164		
法人名	有限会社大翔		
事業所名	グループホーム日和		
所在地	豊田市大坪町日向下23 (電話) 0565-68-3355		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	平成21年6月18日

【情報提供票より】 (平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	4月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	11人	常勤	5人,	非常勤 6人, 常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250円	昼食 350円
	夕食	500円	おやつ 100円
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要(平成21年3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.6歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	J A 愛知厚生連足助病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間部の田園の中にある運営者の自宅を改装し、家庭的で近隣住民との関わりを大切にしているホームである。「支えあうことは、受け止めること」、「心こそ大切なれ」と定めた理念を日々実践している。入居者の現存能力を活かし自由でその人らしい暮らしを支援している。地元小学校の行事に参加したり、交通校区推協のユニホームを入居者が着用して児童の交通安全のボランティアとして参加している。運営者、管理者、職員の対応は穏やかであり、ゆったりとした時の流れが感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	開催が困難な運営推進会議も親睦会として開催することで家族や地元ボランティアの協力が得られるようになった。今後は、他事業者との職員の相互派遣や行事の共同開催などを検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を運営者や管理者は理解しており、自己評価票は職員間で話し合い、管理者が意見を取りまとめて作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	出席者が少なく、実施が困難な状況にある。昨年11月に、入居者、家族、地元ボランティアなど29人の参加を得て親睦会を開催した。、会議の構成員を民生委員や町内会長など幅広く積極的に呼びかけて、2ヶ月1回、開催できるよう検討されることが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見や不満、苦情は常時受け付けているが、皆無に等しい現状である。運営推進会議をはじめ折に触れて部外者へ表せる場を設け、事業所運営に反映されることが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域老人クラブとの交流のほか、地元小学校の行事に参加したり、交通校区推協のユニホームを入居者が着用して児童の交通安全のボランティアとして参加するなど地域との関わりは頻繁であり、地域の関係者との連携も整っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「支えあうことは、受け止めあうこと」、「心こそ大切なれ」と定め、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月最終週に開催されるミーティングや申し送りノートの記録から日々の取り組みを振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域老人クラブ活動への参加、中学生の職場体験の受け入れ、交通校区推協のユニホームを入居者が着用して児童の交通安全のボランティアとして参加するなど地域との関わりは頻繁であり、地域の関係者との連携も整っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、自己評価票は職員間で話し合い作成している。また、外部評価で改善を求められた点はミーティングなどで議題として話し合い、出来ることから取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	11月に、入居者、家族、職員のほかにも地域の人たちやボランティアなど29人の参加を得て、親睦会を開催した。今後は運営推進会議本来の趣旨に添える内容の会議とするため努力中である。	○	委員が揃わず休止の状態であるが、構成委員の再考や市の関係者とも相談し、2ヶ月1回、開催されることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の介護相談員受け入れ、地域サービス向上連絡会など市役所との関わりはある。	○	運営推進会議のほかにも、事業所として質の高いケアに向けて市役所との連携を密にされることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行している「ひよりのおもひで」と題したホームだよりで、日常の暮らしぶりや健康状態などを家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族からの意見や苦情などは担当者を決めて常時受け付けている。説明文書にも公的な窓口を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は日常的に職員との関係を重視し、職場環境の充実に努めている。職員が離職する場合はさりげなく伝え、ダメージ防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員の研修受講を推奨しているが、内部研修の機会は少なく、また外部研修受講も計画性に乏しい状況である。	○	内部研修の実施などを検討し、職員が参加できる環境をつくられることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域サービス向上連絡会、意見交換会への参加に加え、今後は、他事業者との職員の相互派遣や行事の共同開催などを検討している。	○	他事業者との交流、職員の相互派遣の機会を設けるなどして、より質の高いケアに向けて取り組まれることが望まれる。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には本人や家族と話し合う時間を設けており、また、見学や仮入所を実施するなどして、ホームの雰囲気に慣れていただく工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴や職歴などの経験を上手く活かした食事準備、農作業など人生の先輩であることを職員一人ひとりが自覚して共に学びあう関係である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや希望を尊重して、「遠くから見守る」支援をしている。入居者は室内でつくしの袴を取ったり、敷地内庭園のベンチで過ごしたりと自由でゆったりとした時を過ごしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングで入居者の現状について意見交換を行い、家族や医師などの意見も含めて介護計画を作成している。作成された介護計画については家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の介護計画に関する意見交換会で職員の意見をもとに家族や医師など関係者と話し合い、入居者の現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所前からのかかりつけ医の受診支援、買い物、墓参りなど柔軟な支援を実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との関係を重要視して、入居者が適切に受診できるよう家族とも相談して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、看護師の体制が整っておらず不安があるため、退所となることを入所時に説明している。重度化した場合の対応について、関係者間で方針の共有がされているとは言い難い。	○	家族や医療機関など関係者間で話し合われて、終末期ケアの方針を共有されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は人生の先輩であるという思いから、言葉かけや対応はプライバシーを損ねないよう配慮されている。記録などの個人情報も事務所に保管され適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を重視して、行動は自由であり遠くから見守る支援が実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は、入居者の力量に応じて職員と共に行っている。職員は入居者と同じテーブルと一緒に食べながら楽しい会話とともにさりげない介助に努めている。片付けも入居者が率先して食器などを拭いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴可能となっている。入居者の希望に応じ、入浴を楽しめるよう支援がされている。中には入浴を拒む入居者もいるが、強制ではなく言葉かけなどで入浴していただくよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意なことを把握して、毎日の献立表を書く人、敷地内庭園の野菜づくり、花の水やりなどその人らしい役割を自発的にしていただくよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課としている散歩の他にも、地域行事や季節によって、つくし取り、たけのこ堀り、わらび採りなど地域性を活かした外出支援が行なわれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は入居者の行動について「遠くから見守る」ケアを基本にしている。玄関は夜間を除いて施錠をしていない。入居者は自由に外出できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震など災害に対する避難訓練の実施は十分とはいえない。21年度からは、防災計画に沿って訓練を実施する予定である。	○	消防署、地元消防団、地域住民などの協力が得られるよう働きかけ、避難訓練を実施されることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立表を参考にして、栄養バランスが考慮された献立となっている。地域性を活かした食材を取り入れ、水分摂取量なども克明に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音、採光、異臭などはなく、快適に過ごせる共有空間となっている。リビングの壁面には季節感を感じる飾り付けや入居者の作品が掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持ち込み制限はなく、家族の写真など入居者の宝物と思われる品々が置かれておりその人らしい個性豊かな居室となっている。		

※  は、重点項目。